

外国人選手の移籍に関する研究
—日、中プロサッカーに着目して—

A Study On The International Transfer Of The Foreign Players
—With Special Reference To The Professional Football League Between Japan And China—

1K10C257-9 段然

指導教員 主査 木村和彦先生 副査 武藤泰明先生

「目的」

グローバル化が進む大環境の中で、スポーツ人材資源の核心として、スポーツ選手の移籍問題が頻繁に国際的スポーツ事業の研究で取り上げられている。その中に、プロサッカーの移籍は非常に注目されていると見られる。日本と中国はアジアのスポーツ大国として、各自のプロサッカーリーグを持っているが、中国は1980年代から選手の国際移籍活動が始まったと見られ、中国のプロサッカーリーグ設立以降、多数の中国人プロサッカー選手が海外のプロサッカークラブへの移籍に成功したが、プロとして日本に移籍した人はいないと見られる。また、2013年日本のプロサッカーリーグJリーグ（J1とJ2）の外国人選手の在籍状況によると、43.1%と38.7%の外国人選手が韓国とブラジルの出身であり、ほかの外国人選手の割合が18.2%である。その中に、中国人選手は一人もいないと見られる。

本論文は、中国から、プロサッカー選手として日本のJリーグに移籍した中国人がいない原因を検討していくものである。

「方法」

中国人プロサッカー選手が日本のJリーグにいない原因を検討するには、まず移籍に関する概念と制度を整理することが必要である。本研究では、第二章に先行研究から中国人サッカー選手が日本のJリーグに移籍することを阻害する原因を一定的把握し、第四章では、移籍に関する定義と概念を元にドキュメント分析とインタビュー調査を行った。中国サッカーの移籍制度と管理体制の矛盾点に触れていく。

「結果と考察」

ドキュメント分析によって、中国のプロサッカー移籍に関する規則と制度が選手の移籍を阻害する4つの要因がある。①選手は“商品”であるという見方が長期的に存在している。②中国と海外の選手が移籍における自由認定の差異が存在している。

③中国のプロサッカークラブを保護し、選手の権利を保護しない移籍規定が存在している。④中国国内と海外の選手が移籍先における待遇規定の差異が存在している。

インタビュー調査によって、さらに中国人選手の全体的な競技レベルが低い、エージェントの人数とレベルが低い、中国のサッカーリーグが海外から不安視されていることが明らかになった。

「結論」

中国から、プロサッカー選手として、日本のJリーグに移籍した中国人がいない原因について、主に、第一、中国のプロサッカー選手の平均レベルが低い。第二、中国サッカーの管理体制に問題がある。中国のサッカーは中国サッカー協会の独裁であることが明らかである。中国では、プロサッカークラブ連盟と選手の労働組合がないため、クラブチームと選手の利益を保護する組織が存在していない。選手もクラブチームも中国サッカー協会の指示で行動する。第三、中国サッカー協会は移籍金についての具体的な規制がなく、クラブが勝手に移籍金を高く要求することによって、Jリーグのクラブがもっと安く、効率良いブラジル人、韓国人選手に注目する。第四、中国サッカー協会において、選手の移籍を阻害している政策がある。選手が移籍する自由がなく、元の所属クラブからの束縛があるため、自分で移籍先を選択することができない。第五、中国人のサッカー選手の平均学力が低下していて、言葉の問題や通訳、生活習慣の問題で、日本のJリーグへの移籍を阻害している。第六、中国の国内リーグが急成長していて、広州恒大のようなアジアランキング最上位クラブの誕生が選手の海外移籍に影響を与えている。第七、国際的市場で活躍する中国のサッカーエージェントの人数が少ないため、現在、日本のJリーグで、プロサッカー選手としての中国人選手が一人もいない状況になってきた。